



クエンカで食う



宙つりの家―さすがに人影はなかった

旅先で予期せぬ出来事が起きることがままある。それは国内なら簡単に解決できても、海外では途方にくれるようなことにもなる。南スペイン巡礼の旅の予期せぬことはクエンカで起きた。

クエンカは内陸の首都マドリッドと、地中海に面したバレンシアとのほぼ中間にある。二つの川に挟まれた断が絶壁の高台に築かれた街で、岩壁にしがみつくように住宅が建っている。

観光の面では、写真の宙つりの家が有名で、バルコニー部分が空中に突き出ている。小さな街だが、パラ

ドル（国営ホテル）もあり、そこで昼食をしたのだ。

旅立つ前、スケジュール表を見て、クエンカという街を初めて知った。そこで昼食、よし「クエンカで食う」というタイトルで巡礼記に何か書こうと考えていた。

昼食になり、各テーブルに一本ずつ新品のオリーブ・オイルが配られた。

地中海沿いが原産地のオリーブ。そのバール・オイルは、ヨーロッパの国々では食事によく使われている。食卓風景として妻の写真を撮り、オリーブ・オイルをアップでデジ・カムで撮ろうとした時、予期せぬ出来事が起きたのである。

「バッテリーを交換して下さい」

何ということか。こんなことにならないように、わざわざ新品を入れてきたのに。

旅行仲間にもこのことを話すと「充電されませんでしたか？」新品だから

充電なんかしていません」

「最初にきちんと充電しておかないと駄目ですよ!!」

帰国して初めて説明書を読むと、なるほど使用前に充電せよと書いてある。

新品は一番良い状態なのだとは素人考え。一瞬、途方にくれたが、三十九人のグループの中に一人だけ同じ種類の充電器を持って来られた人がおり、それをお借りしてなんとか解決した。

教訓「取り扱い説明書は必ず使用前に読むこと。」

クエンカで楽しく昼食を食うどころではなく、アップカットをくらったような気分させられたクエンカの街は、今となつては懐

かしい。

ところで配られたオリーブ・オイルだが、どのテーブルもそれを使った様子はなかった。

日本人には食事中にパンやサラダにオリーブ・オイルを使うという食習慣がないからだろう。

席を立つ時、ボーイを呼んで、このオリーブ・オイルを持って帰ってよいかと尋ねると「OK」と言うことだったので、新品のオイルを土産に持ち帰った（ボーイとのやりとり

はスペイン語でなく、ジュエスチャー語。この結果、昨秋、小豆島で買いた求めたオリーブ・オイルなど現在、四本ある。

そこで賢い妻に「オリーブ・オイルについて一言」と言うと「ボパイの恋人です」という返事である。

何の関係があるのか今もわからない。巡礼にも結びつかない。クエンカの話は食えん話ばかりで申し訳ない。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

我が家の4本のオリーブ・オイル
―右から2番目がクエンカでもらったもの

